

新カリキュラムにおけるアクア・スポーツ実習の報告

田場 昭一郎¹⁾・岩本 英明¹⁾・村上 純¹⁾・遠矢 英憲²⁾・田原 亮二²⁾
山口 祐一郎¹⁾・當眞 裕樹¹⁾・薄 奈津美¹⁾・久芳 恵里佳¹⁾・阿部 健司³⁾

Report on the Aqua Sports course of the New Curriculum.

Shoichiro TABA¹⁾, Hideaki IWAMOTO¹⁾, Jun MURAKAMI¹⁾,
Hidenori TOYA²⁾, Ryoji TAHARA²⁾, Yuichiro YAMAGUCHI¹⁾, Hiroki TOMA¹⁾,
Natsumi SUSUKI¹⁾, Erika KUBA¹⁾, Kenji ABE³⁾

はじめに

福岡大学スポーツ科学部のアクア・スポーツ実習(特別実習「水泳」海浜実習)は、福岡大学体育学部発足時の昭和46年から実施され、本年度(平成27年)で45回目となる。本実習は、これまで「遠泳」を基盤とした実習で、履修した学生は先導する指揮船と先頭を泳ぐ水泳部の学生を目標に3人で縦隊列を組み、潮の流れを把握しながら、監視船と補助員のサポートによって、2時間以上に亘って海を泳ぎ続ける内容で実施されてきた。しかしながら、平成10年の学部改組転換によって、これまでの「遠泳」中心の実習内容に、マリンスポーツ等のレクリエーションスポーツを取り入れ、履修する学生のニーズに対応しながら現在の実習に至っている。

本年度は、これまでのアクア・スポーツ実習の様々な問題点、さらに今後の学生のニーズに対応していくためにも、実習内容および実習場所を大幅に変更することにした。そこで、水に関わる教

育について「泳げる」ということの重要性、本年度のカリキュラム改正に至る経緯、新カリキュラムの実習報告、さらに今後の課題や問題点も踏まえて、アクア・スポーツ実習について考えてみたい。

I. 水に関わる教育について

1. 「泳げる」ということ

学校体育における水泳の授業の役割は、ただ単に4種目を泳ぐことで泳力や泳技術を身につけるのではなく、陸上とは異なる特殊な環境で行われる運動として「水の特性」を十分に理解し、また自然界において水と共有することの重要性を教育することである。さらに水中で行われる運動は、関節への負担が軽減され、骨格筋や心筋、呼吸循環器系に刺激を与えることができる運動領域であり、様々な年齢層における健康の維持・増進に役立つということ、そして水害や災害などによる水難事故発生時において、人命救助はもちろんの

1) 福岡大学スポーツ科学部
Faculty of Sports and Health Science, Fukuoka University
2) 名城大学
Meio University
3) 福岡県スノーケリング協会
Fukuoka Snorkeling Association

こと、自己の身体をコントロール(水の中で浮遊する)できるような自己保全能力を身につけること、「泳げる」ということはこれらの教育的効果が含まれている。これは学校体育(小中高)の学習指導要領⁷⁾⁸⁾⁹⁾にも明記されており、特に児童の段階から水に対する苦手意識を克服させるためにも専門性の高い指導が必要であるとされている。

福岡大学は、昭和42年に当時では貴重な50mの室内温水プールが設置され、全学部生が身体運動の必要性を学ぶために、必修科目として生涯スポーツ演習(アクアスポーツ・フィットネス、その他の各種スポーツ)が開講されている。本学のスポーツ科学部も、水中で行われる運動の専門性を高めるために「水泳Ⅰ」が必修科目として位置づけられ、クロールと平泳ぎを中心に一定のノルマを達成することで単位が認められており、健康・運動指導にも繋がる基礎知識と泳力および泳技術を身につけるためのカリキュラムも導入している。さらに「水泳Ⅱ」では、競泳4種目を含む個人メドレーに加えて、水中球技種目である水球、さらにヌードル棒や水中ダンベルを活用した水中ウォーキングやアクアエクササイズ、救命胴衣・マスク・フィン・スノーケルの使用法、さらに水の特性を生かした水泳の運動領域とその危険性に関する講義も実施している。

2. 海での水泳指導

遠泳を主体とした海での実習は、歴史的に日本各地で実施されており、大学教育の古くは1902年から、東京高等師範学校(東京教育大学を経た現在の筑波大学)において、四方を海に囲まれている我が国で生命を守るべき水泳教育の重要性と、国民皆泳が提唱されることにより、当時の嘉納治五郎校長の「将来教師となる者は遊泳の心得がなくてはならない」との考えのもと臨海実習として実施されている¹⁷⁾。当時、水泳の授業を実施するにあたって、プールは最も貴重な運動施設であったため、水泳に関する教育は主に自然界(川や海など)で実施され、古式泳法(主に各流派の優れた点を取り入れた水府流大田派)の指導法を取り入

れて引き継がれてきた。のちに筑波大学の臨海実習は、1995年から従来の遠泳以外に、多彩なマリンスポーツのプログラムを導入した教材研究が行われたが、十分な水泳能力を持たない履修者が増加したことで、1999年の再カリキュラム改革によって、人の命を守るための「水泳教育の意義」を念頭に、再び安全面を考慮しながら、マリンスポーツのオプションを大幅に縮小し、現在は「遠泳」を中心に実習が実施されている¹⁸⁾。

II. 福岡大学の海における実習について

1. アクア・スポーツ実習の歴史

福岡大学体育学部創設当時のアクア・スポーツ実習は、昭和46年から3年次生の必修科目としてカリキュラムに導入された。当初は運動方法実習Ⅱの集中として「海浜実習」という名称で実施されている。当時の福岡大学体育学部は、体育スポーツの指導者を養成するにあたって、シーズンに亘って自然の中で行うスポーツを体験させるべく、安全対策を習得させるべきとのカリキュラム理念があり、この理念に基づいて、海浜実習は体育学部の特別実習として最初に実施された。のちに昭和46年度(47年2月)からスキー実習、昭和47年度からはキャンプ実習が実施されている。

実習場所は、かつて佐賀大学が海浜実習を行っていた唐津市幸多里の浜が選定された(当時の梶山彦三郎、峯重新二郎、金森勝也、北原滋夫、田口正公らが現地の下見と宿舎を交渉)。そして唐津市佐志小学校前の玄洋館を本部として実習を行うことが決定された。しかし、300名にもおよぶ学生を一度で収容できる施設・設備がなく、結果的に8箇所の民宿を利用して前段と後段に分けて、学生は入れ替えて、指導教員は通しで実施された。田口正公による企画原案により、学部のほとんどの教員が参加し、民宿や玄洋館、唐房漁業組合の方々の全面的協力を得ての海浜実習であった。

海浜実習に先立ち、隊列泳を海で実施するための泳力と泳技術を身につけるために、プールでの

事前実習も手厚く行われた。プール実習は、他者との足並みを揃えるための協調性を培うこと、隊列を乱さぬよう泳ぎ続けるための集中力を養うこと、自然界の危険性を知ること、さらには自己保全能力を身につけることを念頭に置いて実施された。

海浜実習の目的

海浜実習は海という大自然を理解し、その中で自己の能力の限界に挑戦し、厳しさを克服し、泳力を高めるとともに、集団生活を通して、協力や相互の人間理解、時間やルールを厳守する態度を養う目的で企画する。（田口正公 記）

当時の遠泳は幸多里の浜から出発し、唐津港湾を横断して、佐志の浜まで約3時間半の大遠泳が挙行された。途中で潮流に向かい、1時間近く苦闘しながら泳ぎ、浜にたどりついた時には、全員が抱き合って喜びをかみしめたことが、学部創設20周年記念誌²¹⁾に綴られている。しかし、その後は唐津港湾の工事のため、幸多里の浜湾内の遠泳へと切り替えられた。のちに宿泊収容能力と唐津湾の大型船の船錨置規制による幸多里の浜湾内の海水汚染などにより、17年間にわたり実施してきた唐津市佐志幸多里の浜から、福岡県糸島郡二丈町深江海岸へと実習場所を移し、そこで27年間実施されて現在に至る(当時の指導内容は資料1を参照)。

2. 新カリキュラムに至った経緯

これまで述べたように「遠泳」を中心とした実習は時代とともに多彩なマリンスポーツのプログラムが導入されてきている。福岡大学スポーツ科学部では、平成10年の学部改組転換によって集中実習に関するカリキュラムが改編され、アクア・キャンプ・スキー・スケートの特別実習の履修方法が大幅に変更された。その結果、アクア・スケートのいずれかを選択、キャンプ・スキーのいずれかを選択(健康運動科学科はキャンプ必修)となり、必修科目として28年間にわたって実施さ

れてきたアクア・スポーツ実習も選択科目となった。そして、履修する学生が年々減少するようになり、さらに平成23年の科目選択の改正により、キャンプ・スキー・アクアの実習から1種目を選択(健康運動科学科はキャンプ必修)するようになったため、アクア・スポーツ実習の魅力を理解したうえで「遠泳」中心のアクア実習を希望する学生はさらに減少した。この現状において、泳力や泳技術のある学生の履修だけで実習を実施することは、コストパフォーマンスの側面からも厳しい状況となった。

スポーツ科学部では、このカリキュラム改編の期間中に元来の「遠泳」中心の内容から、水泳能力の向上に加えて、マリンスポーツの魅力を高めるべくアクア・スポーツ実習をより充実させることを目的とし、海浜で行うスポーツ(ボードセーリングやシーカヤック)、海岸で行うレクリエーションスポーツ(ビーチバレーやビーチフラッグや大綱引き)、そして体験スクーバダイビングやスノーケリングを導入するなど、多彩な実習内容を考案してきた。しかしながら、アクア・スポーツ実習を履修する学生は減少する一途にあった。このような現状において、基本的に泳ぐことが好きで、さらなる水泳のスキルアップを求めてアクア・スポーツ実習を希望する学生も存在し、再び「遠泳」を主体とした海浜実習に戻すのではなく、スキルアップを目指す学生の要望に応えるべく、マリンスポーツを通じて、生命を守る水泳教育の重要性について指導できる体育スポーツの指導者を養成することを目的として、大幅なカリキュラムの改革に着手した。

3. 新カリキュラムの妥当性

最終的な教育機関となりうる大学で、体育・スポーツ系の学部・学科における「学校体育における水泳の授業の役割」は大きいと考えられ、教職課程を履修する学生や、体育・スポーツに関わる指導者を育成するためにも「教育における水泳のあり方」について考える機会を与えることは重要である。しかし、水泳領域においてクロールや平

泳ぎなどといった泳法が限定的に取り扱われ、水泳＝競泳の一辺倒であることについて松原らは⁴⁾言及している。また、清野らは³⁾高等専門学校の1・2年生を対象に、水泳の授業において自己達成評価法を取り入れて、泳ぐこと以外のアクアエクササイズを導入した授業改善を実施し「改善授業を学生がどのように受けとめているのか」についての調査と泳力の実態について調べた結果、小・中学期に正課授業で水泳を学んでいるにも関わらず、2～3割の学生に泳力が身に付いていないことを報告している。

今回のアクア・スポーツ実習のカリキュラム改正の目的は、学生のさらなるスキルアップにある。カリキュラム改正に先立ち、平成25年度入学のスポーツ科学部の学生295名を対象に、この実習に関するアンケート調査を実施した結果、次年度にアクア・スポーツ実習を履修したい(74名:25%)または内容に変更があれば履修したい(92名31%)と回答した学生が全体の56%であった。その中で、スクーバダイビングのカリキュラム内容を希望する学生は107名(64%)であった(図1)。水中で実施されるスポーツは大きく分けて(1)水上スポーツ、(2)水面スポーツ、(3)水中スポーツに分けられ、この中でも水面下で行われるスポーツ

は呼吸が制限されるため危険性が高い。したがって、海中スポーツであるスクーバダイビングは、重器材の取り扱い、水中でのコミュニケーション能力、気圧(水圧)の変化に対応するための知識、海洋生物の危険性、トラブル発生時の対応力など、より高度なスキルを身につけなければならない。つまり、スクーバダイビングを本格的に大学教育の教材として取り入れることは容易ではない。しかし、本学では2年生時に「水泳Ⅰ」が必修科目として位置づけられており、その授業を履修している学生は基本的な泳力や泳技術を身につけている。(本年度の履修者の泳力については後述する。)

4. 新カリキュラムに伴う問題点と危険性

我が国では、海や山などの自然環境を利用し、教育の一環としてのレクリエーションスポーツが各地で実施されている。前述した通り、四方を海に囲まれている我が国での当時の水泳教育は、主に海や川で行われてきた。このように自然環境で行われる実習は、特に悪天候の場合には非常な危険を伴い、夏季シーズンの水難事故の発生率は、交通事故をも上回るものと言及されている。これまで福岡大学のアクア・スポーツ実習が行わ

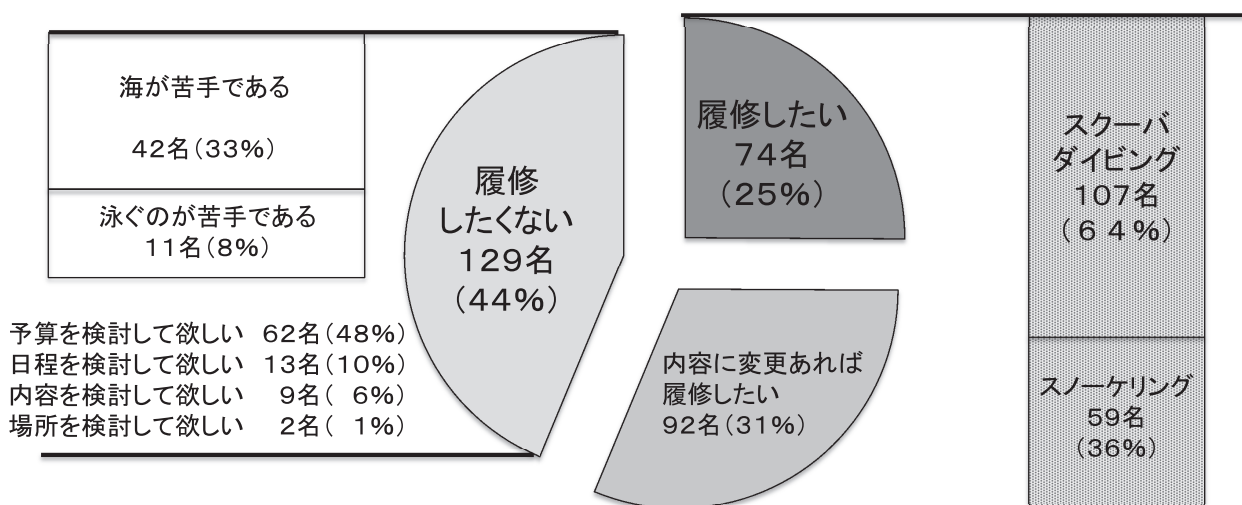


図1 平成25年度入学の学生(295名)を対象としたアクア・スポーツ実習の履修に関するアンケート調査結果

れていた福岡県糸島市二丈深江海岸は、高波がほとんどなく、波も非常に穏やかで、遠泳に適した環境であり、その地で海上保安庁や漁業組合のご協力のもと、万全な安全体制をもって実施され、45年間で水難事故は一度も起こらなかった。しかし、今回の実習は沖縄北部の崎本部緑地公園沿岸で実施されるため、特に台風の影響と海中の危険生物について懸念された。そこで、実習内容および実習地の変更に伴い、事前に岩本英明団長(兼ドクター)と村上純副団長に御協力頂いて実習場所の視察を行った。

実習地から病院までの動線や、宿泊施設の安全性、現地の病院におけるこれまでの事故への対応についての事前調査を行った。また、現地での事前プール実習および宿泊施設については、名桜大学の遠矢英憲先生と田原亮二先生にご協力を頂き、実習初日に貴学の講義室と潜水用プール等の施設の借用を依頼し、現地視察および宿泊場所の交渉と手配についてもご尽力を頂いた。実習地(ダイビングポイント)は、阿部健司先生にも助言頂き、まず、第一候補として崎本部緑地公園沿岸を挙げ、北東・北西風の影響により実習が困難な場合は、南西等への場所の変更が可能かどうか視野に入れて実習候補地を考案した。さらに、台風が上陸した場合のプログラムの変更についても、各先生の助言を頂いて事前に準備を行った。

さらに学生に対しては、事前に行われた3回のガイダンス、プール実習、海浜実習で危険生物に関する講義を実施した。特に「ハブクラゲ・ウミヘビ・オニヒトデ・ゴンズイ・ガンガゼ・カツオノエボシ・ウンバチイソギンチャク・オニダルマオコゼ・ハナミノカサゴ・ヒョウモンダコ・アンボイナガイ」これらの生物は、沖縄県衛生環境研究所や沖縄県警も注意喚起している危険生物である。沖縄の海には見たこともない魚や生物が生息しているが、その危険性についても十分な指導が必要である。

Ⅲ. 新カリキュラムによる実習について

1. 実習履修者

平成27年度のアクア・スポーツ実習の履修者は、福岡大学スポーツ科学部のスポーツ科学科および健康運動学科に在籍する学生43名（男子:37名、女子:6名）であった(表1)。そのうち36名がスクーバダイビングコース、7名がスノーケリングコースを履修した。

2. 実習担当者

岩本英明(団長)、村上純(副団長)、田場昭一郎(実習責任者)、山口祐一郎・薄奈津美(装備・生活・医療担当)、當眞裕樹・久芳恵里佳(渉外・運送・

表1 平成27年度 アクア・スポーツ実習履修者

	全体	男子	女子
人数(人)	43	37	6
身長(cm)	171.91 ±7.53	173.91 ±6.01	159.58 ±2.62
体重(kg)	65.00 ±12.46	69.57 ±12.03	55.25 ±8.23
水泳 I の実技テスト 結果			
3分間平泳ぎ泳距離(m)	158.66 ±30.51	156.54 ±31.53	171.00 ±19.59
50mクロール泳タイム	35.40 ±5.88	35.37 ±5.69	35.57 ±6.76

(平均値±SD)

表2 平成27年度 プール実習の日程

8月2日(日) 1221教室・プール	8月9日(日) プール
1限(09:00~10:30) 学科講習① 2限(10:40~12:10) 学科講習① 昼食(プールに移動) 3限(13:00~17:00) プール実習 (初日のプール実習は全体で実施)	1限(09:00~10:30) 実技演習①I班 2限(10:40~12:10) 実技演習①I班 昼食 3限(13:00~14:30) 実技演習①II班 4限(14:40~16:10) 実技演習①II班 (スノーケリングはPMのみ実技演習①III班)
8月3日(月) 1221教室	8月10日(月) プール
1限(09:00~10:30) 学科講習② 2限(10:40~12:10) 学科講習② 昼食 3限(13:00~14:30) 筆記テスト プール実習のグループ告知(パディ)	1限(09:00~10:30) 実技演習②II班 2限(10:40~12:10) 実技演習②II班 昼食 3限(13:00~14:30) 実技演習②I班 4限(14:40~16:10) 実技演習②I班 (スノーケリングはPMのみ実技演習②III班) 全日程終了後にガイダンス

会計・記録担当), 遠矢英憲・田原亮二(スノーケリング担当), 阿部健司・阿部順子(スクーバダイビング担当)

3. 実習期間

・プール実習

平成27年8月2日(日)~8月3日(月)

平成27年8月9日(日)~8月10日(月)

(事前プール実習は, 実技と講義を実施: 表2)

・海浜実習

平成27年9月8日(火)~9月11日(金)

(初日は潜水用ダイビングプールで実施: 表3)

4. 実施場所

- ・プール実習(福岡大学: 室内温水プール)
- ・実習先プール実習(名桜大学: 室内潜水用プール)
- ・海浜実習(崎本部緑地公園 海岸)
- ・宿舎(屋我地ビーチ: 沖縄県名護市字屋我143番地)

5. 実習内容

・プール実習

全体を通して水中での基本トレーニングを行った。学生を3グループに分け, 3人の指導担当者に加えて4名の補助指導者をプールサイドに

配置し, 実習内容に応じてグループを再編成しながら実施した(指導内容は資料2を参照)。講義は, National Association of Underwater Instructors「NAUI」の教材(NAUI Scuba Diver)を用いて, 2名の専門指導者により実施し, スノーケリングコースの学生も一緒に共通して学科講習を行った。

・海浜実習

4グループ(スクーバコース: 3グループ)(スノーケリングコース: 1グループ)に分かれて, 各班の学生の能力に合わせ, インストラクターの個別による技術指導を行った。なお, 実習終了後の連日とも, スクーバダイビングコースはLog Bookを記載させ, スノーケリングコースは海中で見た海洋生物に関する資料を収集してレポートを作成させた。



アクア・スポーツ実習の開講式の風景

表3 平成27年度アクア・スポーツ実習日程

	9月8日(火)	9月9日(水)	9月10日(木)	9月11日(金)
6:00	空港集合(点呼)	:30 起床 掃除&体操	:30 起床 掃除&体操	:30 起床 掃除&体操
7:00	:00	:45 朝食	:45 朝食	:45 朝食
8:00	:00 福岡空港発 07:15~09:00	:15 集合(出発)	:15 集合(出発)	:15 閉講式08:00~
9:00	:30	:00	:00	:00 終了後に荷造
10:00	名桜大学に移動 (貸切バス) 途中で昼食 10:00~12:00	スキューバコース スノーケルコース 09:00~12:00	スキューバコース スノーケルコース 09:00~12:00	:30 集合(出発) 古宇利島
11:00				
12:00	:30	:30 実習地にて昼食	:30 実習地にて昼食	:30 美ら海水族館 11:00~14:00 各自で昼食
13:00	:30 講義13:00~	:30	:30	:30
14:00	:30 プール実習 (名桜大学) 13:30~16:30	スキューバコース スノーケルコース 13:00~16:00	スキューバコース スノーケルコース 13:00~16:00	:00 那覇空港に移動 (貸切バス) 14:00~16:00
15:00				
16:00				
17:00	:30 宿舎(屋我地島)移動 16:30~17:30	:30 宿舎に移動	:30 宿舎に移動	
18:00	:00 夕食	:00 夕食	:00 夕食	
19:00	:30 ミーティング	:30 ミーティング	:30 ミーティング	:00 那覇空港発 18:00~19:40
20:00	:00 宿舎にて入浴・休憩	:00 宿舎にて入浴・休憩	:00 宿舎にて入浴・休憩	:30 空港にて解散
21:00	:00 就寝	:00 就寝	:00 就寝	
22:00				

6. 実習履修者の泳力

履修した学生の「水泳Ⅰ」の実技テストの結果を全体的に見ると、3分間平泳ぎの平均距離は158.66m (±30.51)、50mクロール泳の平均タイムは35.40 (±5.88)であった(表1)。これは「水泳Ⅰ」における満点評価(男子：平泳ぎ160m以上・クロール34秒以内)(女子：平泳ぎ150m以上・クロール39秒以内)に相当する結果であり、椿本ら¹⁷⁾¹⁸⁾の臨海実習報告における履修者の泳力レベルと比較しても、非常に高い泳力と泳技術を身につけていることがわかる。また、今回の履修者は、クロールのタイムに関して男女差はあまりなかったが、平泳ぎに関しては女子の方が記録が高かった。これは、女子の履修者数が少なく、その履修者のほとんどが水泳経験者であることが影響している。

これらの結果は、従来の「遠泳」を主とした海浜実習も十分に達成できるだけの泳力であり、実際の実習において隊列泳を実施した際、様々な泳法で泳がせても隊列を乱すことはなかった。したがって、新カリキュラム導入の目的である「さらなる水泳のスキルアップ」が十分可能なレベルの学生が履修していることが伺える。

IV. 実習の成果について

本年度はカリキュラム改正の初年度ということもあって、実習に至るまで幾度となく履修者を集ってガイダンスを実施した。そして最終的に履修した43名全員が、途中で離脱することなく、実習先での事故やトラブルもなく無事にアクア実習を終了した。

1. プール実習

8月2日(日)午後のプール実習は全体練習でレッスン1～3までを3名の指導者で担当し、レッスン4はスクーバダイビングコースとスノーケリングコースに別れて実施した(資料2)。実習中はダイビングの基本であるバディ形式を徹底して意識させ、休憩を取りながら4時間近くも手厚い指導が行われた。全ての実習が終了した後にほとんどの学生が「初日の実習が最も辛かった」との内容であった。2日目以降の実習(レッスン4)は各コースに分かれて実施した。スクーバダイビングコースは重器材を着用、スノーケリングコースは軽器材の着用により、専門的な技術指導が行われた。履修した学生は、もともと泳力の高い学生にであったが、さらにプール実習において、マリンスポーツや救助法に関する専門的な技術や知識も習得することができ、海での実習に備えることができた。



潜水用ダイビングプールでの実習風景

2. 海浜実習

海での実習期間中は4日間とも晴天に恵まれ、水温30度前後の非常に良いコンディションで実習が行えた。初日の実習は、実技と講義の2グループに分けて実施した。名桜大学の潜水用ダイビン

グプールでの実技指導は、8月のプール実習以来1ヶ月ぶりに行われたため、重器材の取り扱いに戸惑いが見られ、また各グループの学生の入替わりにも時間を要し、結果的には実技実習後の夕方のスケジュールが1時間程度遅れた。しかし、2日目および3日目の海での実習は、両日共に時間通り実習が進み、特に事件事故やトラブルもなく無事に終了した。ダイビングインストラクターによると、今回の履修者は、通常も体育・スポーツに携わるスポーツ科学部の学生であるため、一般のスクーバダイビング受講者よりも基礎体力および基礎泳力が非常に高く、また技術面の習得に関しても、修正能力が高いとの評価であった。

結果的に、スクーバダイビングコースを履修し

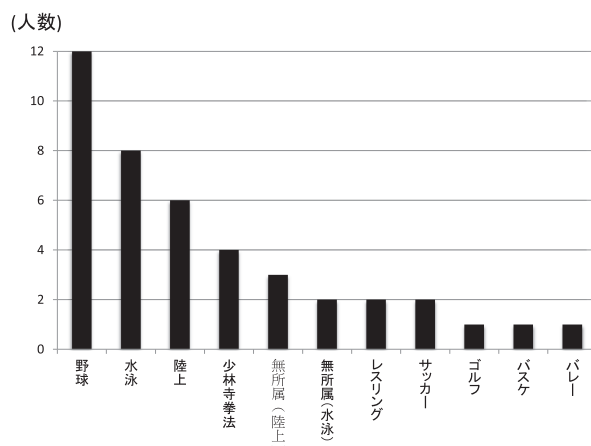


図2 平成27年度 アクア・スポーツ実習履修者の属性

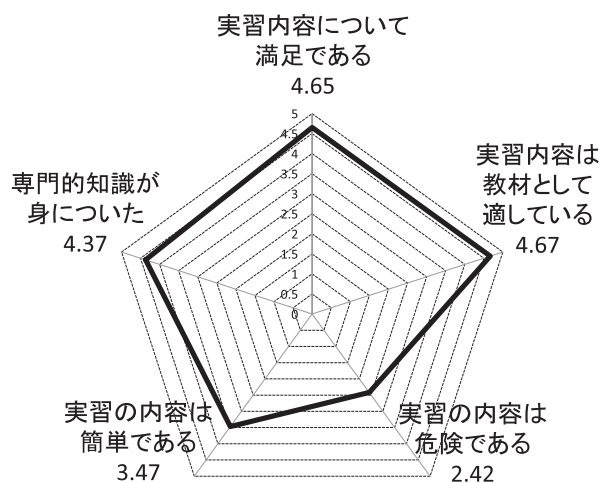


図3 「教育の教材」としてのスクーバダイビングについて(5段階評価)

た学生は、全員がCカード(スクーバダイビングで一定の技能講習を終了した者の技能認定が認められるCertificationカード)を取得することができ、スノーケリングコースを履修した学生は、スノーケラー認定書を取得し、同時にスクーバダイビングのCカードを取得するための講義は全て終了した。さらに、スタンドアップパドルやシーボーンアートも経験することができ、両者とも非常に満足した様子であった。



スクーバダイビングの海中での餌付け

3. アンケート調査の結果

平成27年度にアクア・スポーツ実習を履修した学生に対して、新カリキュラムに関するアンケート調査を実施した(資料3)。アンケート調査は、個人情報保護と得られた情報の公表に関して、文

中で学生の同意を得ることにより、倫理的な配慮を行い、アンケート調査の回答率は100%であった。また、アクア実習履修者が所属する運動部は、野球が12名で最も多く、次いで水泳と陸上であった(図2)。

<実習の内容について>

図3は「教育の教材」としてのスクーバダイビングに関する5段階評価の結果を示した。アンケート調査の結果は、実習内容についての満足度(4.65)、教育の教材として適正(4.67)、専門的な知識の習得(4.37)と、非常に高い評価で、昨年度から大幅にカリキュラムを改革したことによって、履修した学生が実習内容に満足し、よりスキルアップできたことが伺えた。また、実習内容の危険性について(2.42)は、学生らが今回の実習に安全・安心を持って参加できた事が伺える。しかし来年度以降も、事前の準備はもちろんのこと、海という大自然を十分に理解し、危険生物等の対応に関して緊張感を持って、手厚く取り組んでいかなければならない。

<実習の満足度について>

図4は、この実習に関する満足度の5段階評価の結果を示した。この結果から、本実習を履修してよかった(4.77)、友人や後輩に進めたい(4.47)、マリンスポーツが好きになった(4.53)、さらに、機会があればより高い資格を取得したい(3.91)という結果であった。しかし、将来的にスクーバダイビングに関わる仕事がしたい(2.65)という結果から、今後はアンケートの自由記述内容にもあったように、アドバンススクーバダイバー、スペシャルティダイバー、マスタースクーバダイバーなど、マリンスポーツ等の指導者を目指す学生を育成できるように「アクア・スポーツ実習Ⅱ」などの設置も視野に入れ、指導資格者までにスキルアップできるようなカリキュラムも考案していきたい。

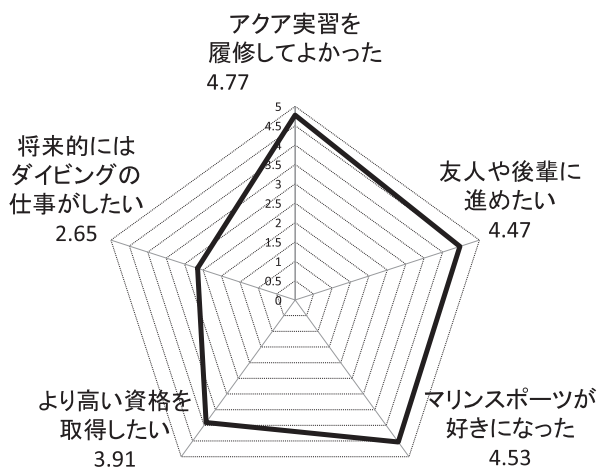
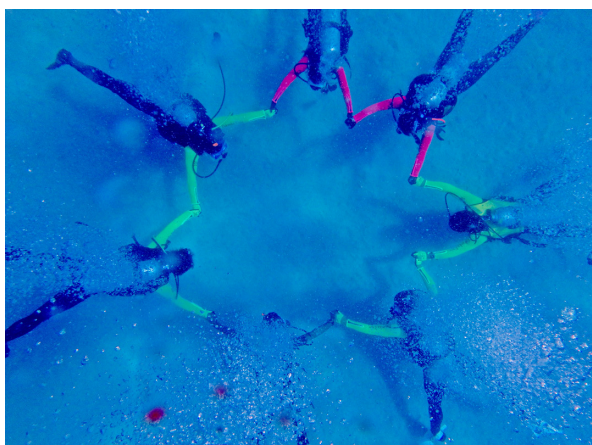


図4 アクア実習の満足度について(5段階評価)



ファンダイビングの風景

V. 総括

一般的に「泳げる」ということを客観的に判定する場合は、可泳距離（どの程度の距離を泳げるか）と可泳速度（ある距離をどの程度速く泳げるか）によって判定される。特に小学校のプールのほとんどが25mプールであり、「25mを立たずに泳ぐこと＝泳げる」という認識があるように見受けられる。しかし、今回のアクア実習のように、実際に海で大自然と共有しながら泳ぎ続けるためには、水中での呼吸法と浮遊する能力を身につけることは必然であり、何よりもこの実習において、自己保全能力に対する自己責任、さらに水中のボディ形式による指導で、他者にトラブルが発生した際に気を配る責任感を培うことが出来た。これは、実技実習の教育に基づく教材として非常に重要な要素であり、当時の福岡大学体育学部のカリキュラム理念「体育スポーツの指導者を養成するにあたって、シーズンに亘って自然の中で行うスポーツを体験させるべく、安全対策を習得させる」とも併存する。

この実習を通じて、スポーツ科学部で「水泳Ⅰ」が必修科目として位置づけられ、水泳に関しての基礎的な知識、さらには泳力と泳技術を身につけるためのカリキュラムが導入されていることの重要性を感じた。さらに、アクア・スポーツ実習を履修した理由に「スクーバダイビングの導入」「資格(Cカード)取得」「沖縄の海という環

境」の回答が圧倒的に多かったことから、新しいプログラムと資格取得の導入、そして実習地の変更は効果的であった。また、スポーツ科学部の学生が海という大自然に興味を持っていることも判った。アンケートの自由記述内容やアンケート調査結果からも、カリキュラム改正に伴い、学部生の要望に応えることが出来たことが何よりの歓喜である。

ダイビングコースで資格(Cカード)を取得した学生は、これを機にさらにスクーバダイビングの経験を積み、アドバンススクーバダイバー、スペシャルティダイバー、マスタースクーバダイバー等へステップアップしていくことを期待したい。そしてスノーケリングコースの学生は、ダイビングカードを取得するための実技演習にチャレンジし、有資格者を目指して欲しい。次年度からも、次世代の体育・スポーツの指導者を養成するにあたって、このアクア実習がより充実した内容になるよう努めていきたい。

VI. 謝辞

これまでのアクア・スポーツ実習の発展に、永きに渡りご尽力頂いた田口正公名誉教授と実習関係者の方々、また本年度の実習において熱心にご指導頂いた教職員ならびに指導員(インストラクター)の方々、地域の宿泊施設や実習場所の方々、名桜大学の関係者ならびに履修した学生達に、この場を借りて心より御礼申し上げます。

参考文献

- 1) 天野秀哉, 鋤柄純忠, 大山康彦 (2009) 水泳実習における泳力向上と授業認識に関する一考察. -小学校教職課程大学生を対象として-. 茨城キリスト教大学紀要第43号203. 自然科学, 203-216.
- 2) 浅見裕 (1986) 教育学部学生が持つ体育指導の自信について. 教育工学研究8, 11-36.
- 3) 清野哲也, 坂田洋満, 篠村朋樹 (2008) 水泳授業

- における授業改善について. 木更津工業高等専門学校紀要. 第41号, 45-49.
- 4) 松原匠, 長見真 (2014) 戦後学校体育における水泳授業に関する研究～生涯スポーツを志向する水泳授業を支点として～. 仙台大学大学院スポーツ科学研究科修士論文集. Vol. 15 101-108.
 - 5) 松井敦典, 南隆尚, 野村照夫, 合屋十四秋 (2014) 水泳教育における着衣泳の普及と取り扱いの展望. 日本水泳・水中運動学会2014年次大会論文集.
 - 6) 三本木温 (2010) 新しい学習指導要領におけるこれからの体育科のあり方. 八戸大学紀要第40号59-68.
 - 7) 文部科学省 (2008) 小学校学習指導要領解説: 体育編
 - 8) 文部科学省 (2008) 中学校学習指導要領解説: 保健体育編
 - 9) 文部科学省 (2008) 高等学校学習指導要領解説: 保健体育編
 - 10) 村瀬陽介, 長岡裕里子, 橋富達也, 酒井紳, 下門洋文, 安藤邦彬, 向後佑香, 武田剛, 鍋山隆弘, 白木仁, 大高敏弘, 高木英樹 (2014) 大学体育研究, 36:29-37.
 - 11) 野村東子, 春日晃章, 熊谷佳代, 宇野嘉朗, 小椋優作 (2014) 小蓬学校教員の泳力別にみた水泳指導に対する困難度. 岐阜大学教育学部研究報告 (自然科学) 第38巻, 127-131.
 - 12) 大島弥生, 佐野裕司, 田村祐司, 村松園江 (2007) マリンスポーツ実習における海洋実験が受講生に与える影響-振り返りによる体験の深化へ向けて-. 東京海洋大学研究報告, 3:51-60.
 - 13) 櫻井美子 (2013) 中学校武道必修化の実態とこれからの授業展望への可能性-海老名市水泳授業に着目して-. 神奈川大学国際経営論集45, 121-131.
 - 14) 千足耕一, 蓬郷尚代 (2014) 水辺の自然体験活動および海洋教育の教育的効果. 海洋人間学雑誌, 第3巻, 第1号, 6-16.
 - 15) 高橋徹 (2003) 日本人の価値観・世界ランキング. 中公新書ラクレ
 - 16) 田口正公 (2013) 創成期の学部史. 福岡大学スポーツ科学研究. 第44巻 第1号(通巻79号), 9-12.
 - 17) 椿本昇三・仙石泰雄・高木英樹・本間三和子・武田剛・安藤邦彬・大高敏弘・真田久・武政徹・渡部厚一・宮川俊平・吉田章 (2011) 筑波大学水泳実習(臨海)の授業報告. 筑波大学体育系紀要, 137-149.
 - 18) 椿本昇三, 仙石泰雄, 村瀬陽介, 酒井紳, 高木英樹, 本間三和子, 大高敏弘, 武政徹, 渡部厚一, 宮川俊平 (2014) 新カリキュラムにおける2013年臨海実習の報告. 筑波大学体育系紀要, 179-183.
 - 19) 日高敬児 (2008) 「泳げる」ということについて. 佐賀大学文化教育学部研究論文集. 第12集, 第2号, 241-247.
 - 20) 福岡大学スポーツ科学部35周年記念誌 (2005)
 - 21) 福岡大学体育学部20周年記念誌 (1989)

資料1 学部改組転換前 海浜実習における実習内容

	第1日目	第2日目	第3日目	第4日目
A	<ul style="list-style-type: none"> ・水慣れ ・泳法の修正(平泳) ・隊列のとり方 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペースのとり方 ・立泳ぎ ・合同の隊列泳 	<ul style="list-style-type: none"> ・大遠泳 ・レクリエーション 	<ul style="list-style-type: none"> ・救助法 ・救急法 ・レクリエーション
B	<ul style="list-style-type: none"> ・クロール ・背泳 			
C	<ul style="list-style-type: none"> ・水慣れ ・泳法の修正 ・平泳での距離泳 	<ul style="list-style-type: none"> ・隊列のとり方 ・ペース配分 ・泳法の修正 ・合同での隊列泳 	<ul style="list-style-type: none"> ・レクリエーション ・中遠泳 	
D			<ul style="list-style-type: none"> ・レクリエーション ・中遠泳 	

資料2 プール実習 基礎トレーニング指導内容

全体練習

[レッスン1] 自己保全スキルの習得	(1)ウォーミングアップ ポビング・浮身・スカーリング動作により、心筋と骨格筋の作用を促す。 様々な泳法による2列の隊列泳でボディシステムを理解する。	(2)救助法 接近 → ディフェンスポジション → チンプル → リアキャリアー(水着) 接近 → ディフェンスポジション → チンプル → リアキャリアー(ウエット着用)
[レッスン2] スノーケリングスキルの習得	(1)スノーケリング指導 スノーケリングの基本(用具の着脱・スノーケルクリア・身体の起こし方) キック動作 (フラッターキック・サイドキック・バックキック・あおり足・ドルフィンキック)	[レッスン3] レスキュースキルの習得
		(1)レスキューの基本 足の痙攣(つった)の場合の対処法(個人・パディ形式) 人命救助法(ウエットスーツ・フットプッシュ・ジョーリフト) フルレスキューの評価(7班に分かれて同時進行) ドラッグ法(1人で搬送・2人で搬送) および コーマポジション

スクーバダイビングコース

[レッスン4] スクーバダイビングにおける専門スキルの習得	(1)陸上および水面 器材のセッティング・リセット BCDの給気・排気 レギュレーターリカバリーとクリア 水面でのフィンキック移動 スノーケルとレギュレーターとの交換 ウエイトベルト脱着	(2)水中 レギュレーターリカバリーとクリア マスククリア(半水没・全水没) 中性浮力の確保 エアーモニター・ハンドシグナル ファンダイビング 浮上
(3)陸上および水面 器材のセッティング・リセット オクトパス・ブリージング オーラルによるBCDの吸排気 ウエイトベルト脱着 スクーバ器材の脱着	(4)水中 オクトパス・ブリージング 緊急スイミング・アセント マスク脱着 まとめ(総合スキル)	

スノーケリングコース

[レッスン4] スノーケリングにおける専門スキルの習得	(1)スノーケリング指導 スノーケリングとスキндаイビングの違い マスクの使用(マスククリア) スノーケルの使用(スノーケルクリア) フィンの使用 (フラッター・サイド) (バック・ドルフィン・あおり足)	(2)浮力ジャケットの着用 浮力ジャケットの使用 着用によるスノーケリング 浮力ジャケットとウエットスーツ着用 パディ形式による長時間の浮遊
(3)スキндаイビング指導 息こらえ(スノーケル)潜水と耳抜き 水中でのフィンキックの技術指導 (4方向) 潜水方法(ジャックナイフ) ウエイトベルトを活用しての中性浮力の保ち方	(4)スキндаイビング指導 レスキューチューブの説明 安全のための「事前・事後」チェックシート スノーケリングに必要な器材と装備について まとめ(総合スキル)	

新カリキュラムにおけるアクア・スポーツ実習の報告（田場・他）

資料3 平成27年度 アクア・スポーツ実習のアンケート内容

<身体特性と属性について>

性別）男性・女性	所属）部	(2015年9月10日現在)年齢）才
身長）cm	体重）kg	コース）スクーバ・スノーケリング

<ダイビングについて>

- スクーバダイビングを体験（経験）したことがありますか？ はい・いいえ
 家族にスクーバダイビングをしている人はいますか？ はい・いいえ
 アクア実習を履修しなくてもダイビングの資格を取得するつもりだった はい・いいえ
 アクア実習で使用した教材の「NAUI」を知っていましたか？ はい・いいえ
 今まで沖縄の海で泳いだ経験はありますか？ はい・いいえ

<アクア実習について>

「スキー実習」「キャンプ実習」「アクア実習」の中からアクアを選択したのはなぜですか？

昨年度の内容であっても「アクア実習」を履修していましたか？ はい・いいえ

「はい」と答えた人 → アクア実習を履修したい理由を教えてください（複数選択可）

- (1)泳ぐのが好きだから (2)海が好きだから (3)自然が好きだから (4)実習地が好きだから
 (5)友達や先輩に勧められるから (6)家族に勧められるから (7)実習内容が充実しているから
 (8)実習の実施時期が良いから (9)他の実習の実施時期が悪いから (10)他の実習が苦手だから
 (11)楽しそうだから (12)なんとなく
 その他（ ）

「いいえ」と答えた人 → 今年のアクア実習を履修した理由を教えてください（複数選択可）

- (1)泳ぐのが好きだから (2)海が好きだから (3)自然が好きだから (4)実習地が好きだから
 (5)友達や先輩に勧められたから (6)家族に勧められたから (7)実習内容が充実しているから
 (8)実習の実施時期が良いから (9)他の実習の実施時期が悪いから (10)他の実習が苦手だから
 (11)楽しそうだから (12)なんとなく
 (13)資格が取得できるようになったから (14)実習地が沖縄に変更したから
 その他（ ）

<実習の内容について>

- | | | |
|----------------------------|-----------|----|
| 01) 今回のアクア実習の内容に満足している | 1・2・3・4・5 | はい |
| 02) 今回のアクア実習を履修してよかった | 1・2・3・4・5 | はい |
| 03) 今回の実習内容は教育の教材として適している | 1・2・3・4・5 | はい |
| 04) 来年のアクア実習を友達や先輩に勧めたい | 1・2・3・4・5 | はい |
| 05) 今回の実習内容は教育の教材としては危険である | 1・2・3・4・5 | はい |
| 06) 実習内容は思ったよりも辛かった | 1・2・3・4・5 | はい |
| 07) 実習前よりもマリンスポーツが好きになった | 1・2・3・4・5 | はい |
| 08) スクーバダイビングは思ったよりも簡単だった | 1・2・3・4・5 | はい |
| 09) さらにハイレベルなダイビング資格を取得したい | 1・2・3・4・5 | はい |
| 10) 予想以上に専門種目の技術や知識が身についた | 1・2・3・4・5 | はい |
| 11) 将来はダイビング関係の仕事に就きたい | 1・2・3・4・5 | はい |
| 12) 実習場所や実習内容のわりに実習費が安いと思う | 1・2・3・4・5 | はい |

自由記述欄